

高知県感染症発生動向調査（週報）

2016年 第47週（11月21日～11月27日）

★お知らせ

○咽頭結膜熱に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第46週の0.77から第47週は1.00と増加しています。高知県全域、高知市、中央東、中央西で増加し、高知県全域、高知市、中央東で注意報値を超えています。特に高知市では第44週まで9週連続で注意報値を超えた後、第45週は一旦注意報値を下回っていましたが、その後再び増加し2週連続して注意報値を超えており、報告の多い状態が継続しています。

定点医療機関からの報告は1~3歳が全報告の80%を占め、0~6歳で全報告の93%を占めるなど、乳幼児の報告が増加しています。

また、定点医療機関からのホット情報でもアデノウイルス感染症として11例の報告があるなど、アデノウイルスを原因とする感染症の報告が増加しており注意が必要です。

咽頭結膜熱の主な症状は、発熱・咽頭炎・結膜炎で、その他に、リンパ節の腫れ、腹痛、下痢等が生じることもあります。

感染力は強く、通常は患者の咳やくしゃみ等のしぶきに含まれるウイルスによる飛沫感染、あるいは、ウイルスが付着した手やタオル等の患者が触れたものを介した接触感染により結膜あるいは上気道から感染します。

以下のことに気を付け、感染予防に努めましょう。

- 1) 流行時には流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう。
- 2) 感染者との密接な接触は避けましょう。
- 3) タオル等は別のものを使い、共用しないようにしましょう。

○百日咳に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第46週の0.07から第47週では0.10と増加しています。高知県全域と、幡多で増加し高知県全域、須崎、幡多で注意報値を超えています。また、病原体検出情報では須崎、幡多からそれぞれ百日咳菌（*Bordetella pertussis*）1例が報告されています。百日咳は、百日咳菌による感染症です。患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌によって感染します。通常7~10日間程度の潜伏期を経て、普通のかぜ症状で始まり、次第に咳が多くなり程度も激しくなる事と、痰が出る事が特徴です。その後、激しい咳は2~3週間かけて徐々に治まりますが、時折、発作性の咳がみられます。

百日咳は、感染力が強く、咳の開始から約3週間は菌の排出があるため、注意が必要です。

特に生後6ヶ月未満の乳児では無呼吸発作等、重篤になる場合もあるので、予防接種をしていない新生児、乳児がいる場合は特に感染に対する注意が必要です。

予防対策は予防接種、うがい、手洗い、咳エチケットです。

感染予防のためにワクチン接種をお勧めします。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

○インフルエンザに気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第46週の0.33から第47週では0.10と急減しましたが、須崎からは今期初めて報告がありました。

中央西、須崎、中央東、高知市から報告があり、迅速検査ではインフルエンザA型が100%となっています。

県内ではまだ増加傾向は見られませんが、全国では定点医療機関当たりの報告数が第45週の0.84から第46週では1.38と流行の兆しとされる1.00を超え引き続き増加傾向にあるうえ、過去5年間の同時期と比較しても報告数が多い状態であることから注意が必要です。

全国の今シーズンの検出状況は第46週時点でA(H3)香港型が86.5%、A(H1)pdm09型が9.9%、B型が3.6%となっています。

これからの時期は空気も乾燥し、インフルエンザウイルスが活動しやすい時期となります。

インフルエンザの感染力は大変強く、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が拡大することから、集団生活の場では特に注意が必要です。

予防対策としては手洗い、咳エチケットのほか予防接種がありますので、かかりつけ医療機関にお尋ねください。

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多
休校	第47週	0	0	0	0	0	0
	累計	0	0	0	0	0	0
学年閉鎖	第47週	0	0	0	0	0	0
	累計	0	1	0	0	0	0
学級閉鎖	第47週	0	0	0	0	0	0
	累計	0	0	0	0	0	0

インフルエンザ予防接種は、お早めに！

インフルエンザワクチンを接種してから抗体ができて予防効果が発現するためには、約2週間かかり、約5ヶ月程度持続すると言われていたことから、12月頃までに接種を完了することが望まれます。予防接種には、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症を一定程度抑える効果や重症化を予防する効果が認められています。

インフルエンザの飛沫感染対策【咳エチケット】

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の咳エチケットに心がけてください。

- (1) 普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- (2) 咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。
- (3) 手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。 等

■ 飛沫感染対策ではマスクは重要です。特に感染者がマスクをすることが、感染の拡散を抑える効果が高いと言われています。

- 厚生労働省 「平成28年度今冬のインフルエンザ総合対策について」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>

- 厚生労働省 「平成28年度インフルエンザ Q&A」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第46週の4.40から第47週では4.77とほぼ横ばいですが、中央東、中央西、幡多では増加しています。定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルス5例、ロタウイルス1例、カンピロバクター1例の他、病原性大腸菌O-26が1例、O-157（第46週検出）が1例報告されています。病原体検出情報では臨床診断名感染性胃腸炎として第47週に搬入された検体からNorovirus GIIの他、Sapovirusが報告されています。

全国では定点医療機関当たりの報告数が第46週に13.12と注意報値を超えており、警報値を超えている都道府県が5、注意報値を超えている都道府県が14となるなど、報告数が増加しています。

感染性胃腸炎は、病原体により異なりますが、通常1～3日の潜伏期間の後発症し、吐き気、おう吐、下痢、発熱、腹痛を主症状とする、細菌あるいはウイルスなどによる感染症で特別な治療法は無く、治療は症状に応じた対症療法となります。乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状を生じることがありますので早めに医療機関を受診することが大切です。

例年、秋から冬にかけてノロウイルス、ロタウイルスなどのウイルス感染による感染性胃腸炎の報告数が増加します。

特にノロウイルスを原因とする場合、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあるため注意が必要です。

予防対策のため、帰宅時や調理前・食事前、トイレの後に石けんでよく手を洗いましょう。また、感染した人の便やおう吐物には、直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用法を確認したうえで使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処分しましょう。）調理をする場合は、十分加熱しましょう。

- 厚生労働省 「ノロウイルスに関する Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

- 衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

基幹定点当たりの報告数は第46週の1.38から第47週では1.13と減少していますが、定点医療機関からのホット情報で33例、感染症情報収集システム※では18例の報告があるなど先週までに引き続き報告数の多い状態が続いていることから、注意が必要です。

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマによって起こる呼吸器感染症で、幼児期から学童期によく見られます。2～3週間と比較的長い潜伏期間を経てまず発熱、全身倦怠感、頭痛などの初期症状が現れます。その後、頑固な咳嗽がみられ、この咳は解熱後も3～4週間続きます。重症化すると中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を生じることがあります。

感染経路は患者の咳のしぶきを吸いこんだり、患者と身近で接触したりすることにより感染すると言われています。保育園や幼稚園、学校、あるいは家庭内等での伝播がみられます。

予防対策としては、手洗いと咳エチケットです。

※ 感染症情報収集システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

つつが虫の報告が2例ありました。

日本紅斑熱やSFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが、つつが虫病はツツガムシというわずか0.3mmほどのダニの幼虫が媒介する感染症です。

すべての、ダニやツツガムシが病原体を持っているわけではありませんが、これらのダニに咬まれないようにすることが感染の予防になりますので引き続き、注意が必要です。予防するためのワクチン等はありません。

マダニやツツガムシは野外に生息しています。野山や畑、草むらなどに出かけるときは十分注意しましょう。長袖・長ズボンを着用し、シャツの裾はズボンの中に入れ、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる等、肌の露出を少なくし、ダニ用の忌避剤を使用する等して、ダニに咬まれないようにしましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～2週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。






●高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

●高知県衛生研究所 マダニによる感染症の注意喚起パンフレットを作成しました。

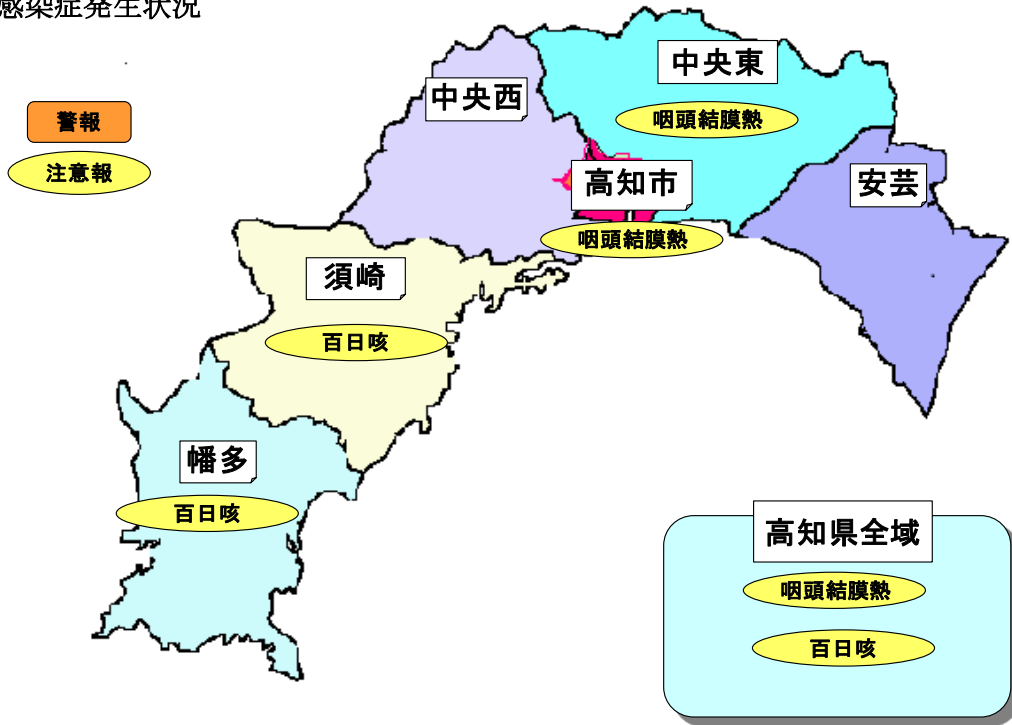
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2016061300063.html>

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ：急増 ：増加 ：横ばい ：減少 ：急減
47週（11月21日～11月27日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎		4.77	中央東、中央西、幡多で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.70	高知市、中央東、須崎、中央西、幡多で増加しています。
咽頭結膜熱		1.00	高知市、中央東、中央西で増加し、高知県全域、高知市、中央東では注意報値を超えています。
水痘		0.80	高知市、中央西、中央東で増加しています。
RSウイルス感染症		0.70	中央西、幡多で増加しています。

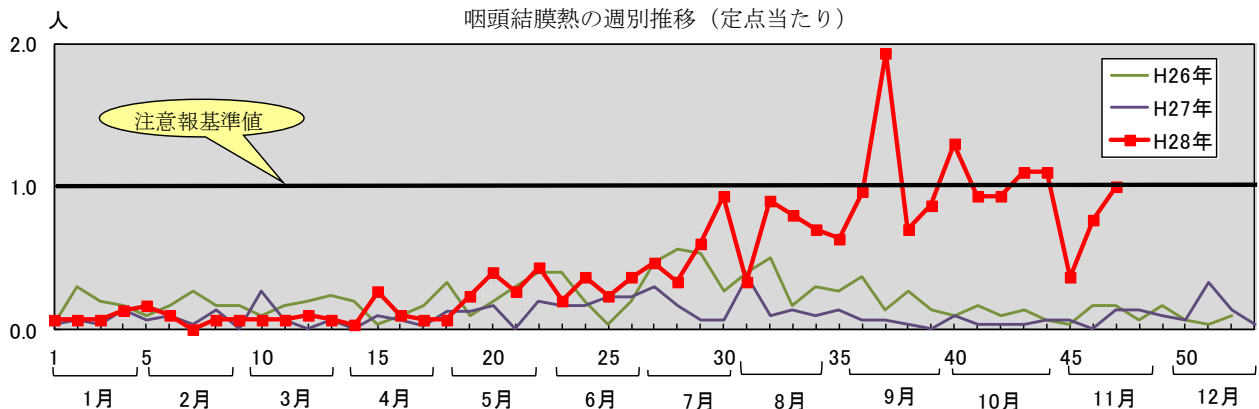
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

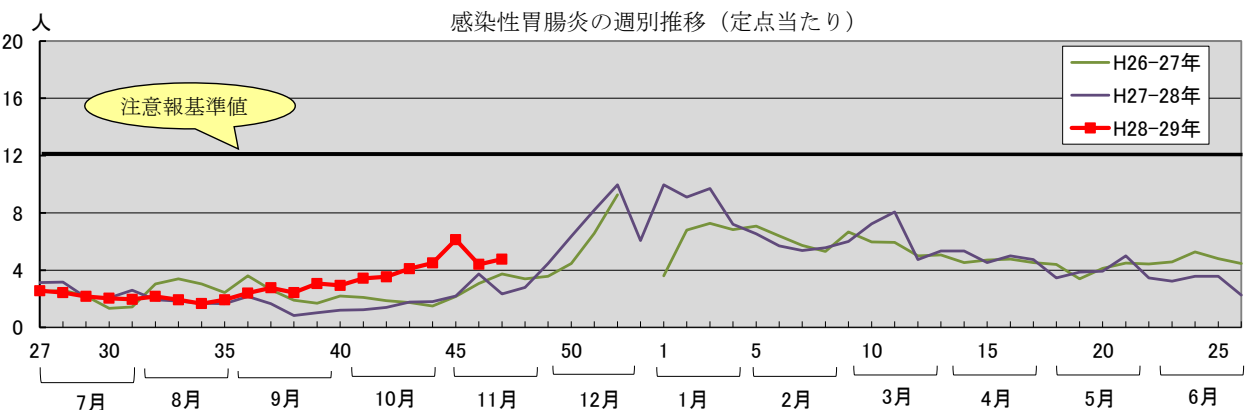
○咽頭結膜熱 第47週： 1.00 (注意報値：1.00 警報値：3.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.00 (前週：0.77) と増加し、高知市 2.00 (前週：1.55)、中央東 1.00 (前週 0.71)、中央西 0.33 (前週：0.00) で増加し、高知県全域、高知市、中央東では注意報値を超えています。



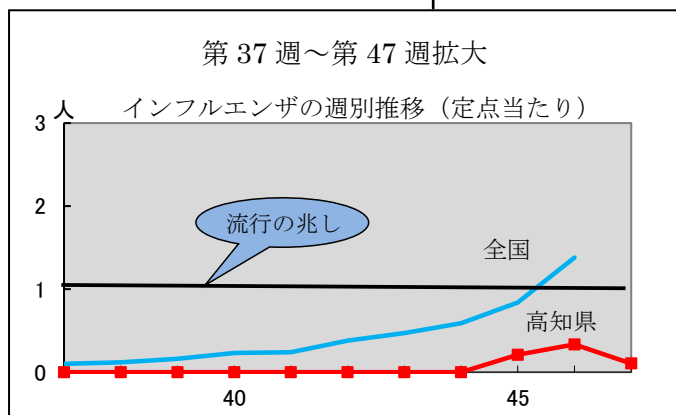
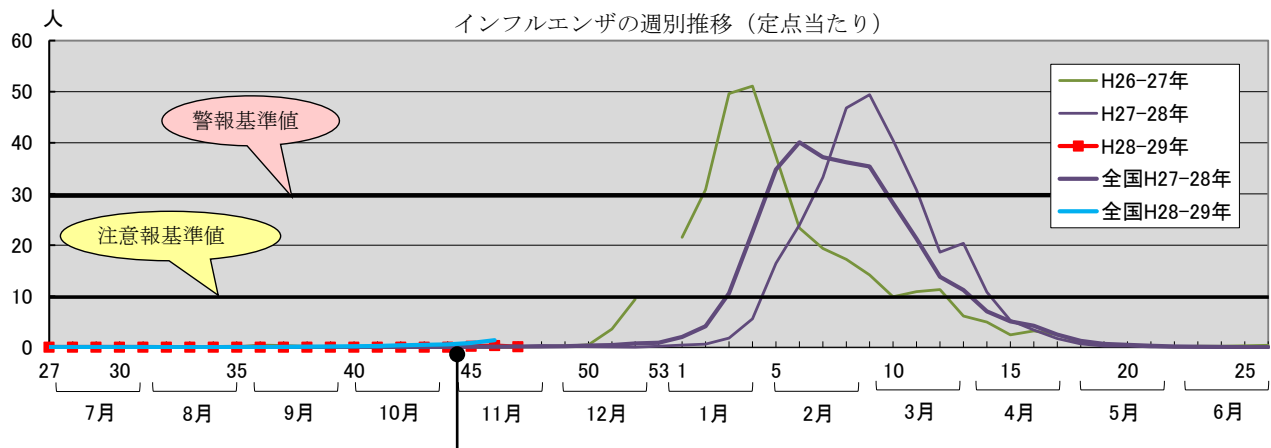
○感染性胃腸炎 第47週：4.77 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 4.77 (前週：4.40) とほぼ横ばいですが、中央東 6.57 (前週：5.86)、中央西 5.67 (前週：2.33)、幡多 2.80 (前週：1.80) で増加しています。



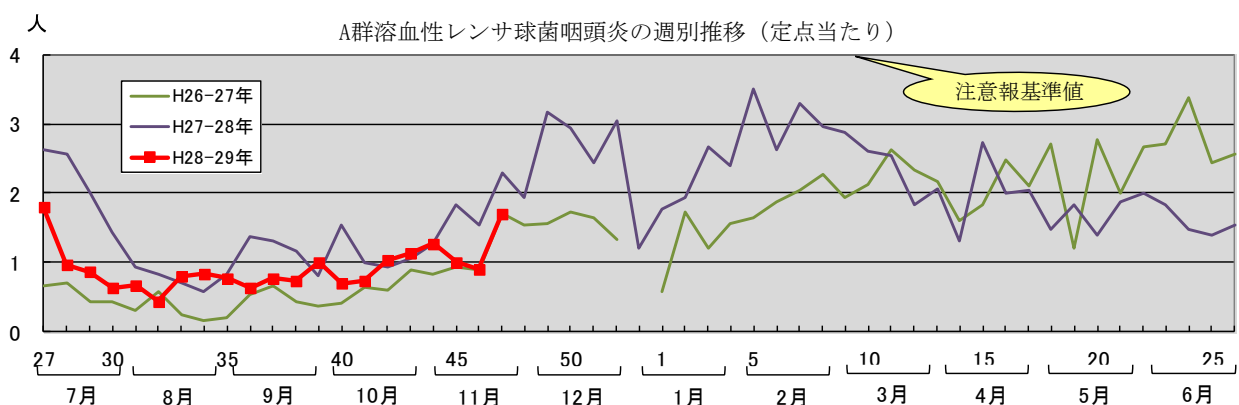
○インフルエンザ 第47週：0.10（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり0.10（前週0.33）と急減していますが、須崎0.25（前週0.00）で増加しています。



○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第47週：1.70（注意報値：4.00 警報値：8.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり1.70（前週：0.90）と増加しています。高知市2.55（前週：1.91）、中央東2.00（前週：0.14）、須崎1.50（前週：1.00）、中央西1.33（前週：0.67）幡多0.20（前週：0.00）、で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。

そのため、H25-H26年とH26-H27年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
47	感染性胃腸炎	1	男	須崎	Norovirus GII NT
47	感染性胃腸炎	2	男	須崎	Norovirus GII NT
47	感染性胃腸炎	11ヶ月	男	須崎	Sapovirus genogroup unknown
47	百日咳	1ヶ月	女	須崎	<i>Bordetella pertussis</i>
47	百日咳	11	女	幡多	<i>Bordetella pertussis</i>

★全数把握感染症

第47週

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
4類	つつが虫病	1	2	80歳代男	中央東
		1	3	60歳代女	中央東

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	あけぼのクリニック	マイコプラズマ感染症2例（9歳、12歳）
	早明浦病院小児科	マイコプラズマ肺炎4例（3歳女、5歳女、13歳男、18歳女）
		カンピロバクター腸炎1例（2歳女）
		水痘1例（4歳女：予防接種2回済み） 感染性胃腸炎は病原性大腸菌0-26 1例（1歳男）
野市中央病院小児科	マイコプラズマ肺炎3例（2歳男、5歳女、7歳男）	
高知市	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ肺炎9例（4歳2人、5歳、7歳、8歳3人、11歳、13歳）
		アデノウイルス感染症5例（2歳、3歳2人、18歳、32歳）
	福井小児科・内科・循環器科	アデノウイルス感染症1例（5歳女）
		水痘1例（4歳女：ワクチン未接種）
		溶連菌感染症10例
		マイコプラズマ肺炎1例（14歳男）
	細木病院小児科	流行性耳下腺炎1例（7歳女：ワクチン未接種）
		ノロウイルス1例（10ヶ月女）
		ロタウイルス1例（7歳男）
		病原性大腸菌0-157 1例（13歳男※46週検出）
国立病院機構高知病院小児科	感染性胃腸炎の2歳男児についてはロタウイルス罹患	
	三愛病院小児科	マイコプラズマ 溶連菌 同時感染1例（6歳男） （※溶連菌は46週に報告済）
		マイコプラズマ肺炎4例（3歳男、7歳女、8歳女、12歳女）
高知医療センター小児科	アデノウイルス感染症1例（5歳女）	
	RSウイルス感染症1例（3歳女） ノロウイルス(+)1例（1歳女）	
中央西	日高クリニック	アデノウイルス扁桃炎1例（3歳男） マイコプラズマ肺炎2例（8歳男、16歳女）
	くぼたこどもクリニック	アデノウイルス感染症1例（12歳女）
須崎	もりはた小児科	滲出性扁桃炎（アデノ）2例
		マイコプラズマ肺炎2例（8歳、10歳）
		百日咳1例（1ヶ月女：LAMP+）
		マイコプラズマ肺炎1例（10歳※46週検出）
幡多	さたけ小児科	マイコプラズマ5例（6歳男女、7歳男、10歳女、12歳女）
		ノロウイルス3例（1歳女3人）

★全国情報

第45号（11月7日～11月13日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核341例

3類感染症：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症76例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎2例、オウム病1例、チクングニア熱1例、つつが虫病34例、デング熱3例、日本紅斑熱5例、マラリア1例、レジオネラ症28例

5類感染症：アメーバ赤痢8例、ウイルス性肝炎3例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症29例、急性脳炎6例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症9例、後天性免疫不全症候群11例、ジアルジア症3例、侵襲性インフルエンザ菌感染症3例、侵襲性肺炎球菌感染症47例、水痘（入院例に限る）4例、梅毒66例、播種性クリプトコックス症1例、破傷風1例、風しん4例、麻しん1例

報告遅れ：つつが虫病7例、日本紅斑熱2例、レジオネラ症3例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症17例、急性脳炎8例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症10例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、水痘（入院例に限る）3例、梅毒24例、播種性クリプトコックス症1例、風しん1例

★注目すべき感染症

◆ インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられる。主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染（飛沫感染）であり、他に飛沫の付着物に触れた手指を介した接触感染もある。感染後、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続くが、いわゆる「通常感冒」と比べて全身症状が強いことが特徴である。通常は1週間前後の経過で軽快する。

2016/2017年シーズンのインフルエンザは、2016年第45週（2016年11月7～13日：2016年11月16日現在）では定点当たり報告数が0.84で、前週の定点当たり報告数0.59よりも増加した（インフルエンザの年別・週別発生状況）。都道府県別では、沖縄県（7.97）、栃木県（2.86）、北海道（1.92）、福井県（1.91）、岩手県（1.54）、群馬県（1.36）、埼玉県（1.12）、東京都（0.94）、石川県（0.92）、茨城県（0.90）の順に多く、沖縄県以外では東日本の自治体で多く報告された。39都道府県では前週よりも報告数が増加した。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関を受診した患者数を推計すると、2016年第45週は約5万人（95%信頼区間：4～5万人）となり、前週の推計値（約3万人）よりも増加した。年齢別では、5～9歳が約1万人、20代が約1万人でいずれも前週よりも増加し、男女比は1:1であった。また、第36週以降の定点医療機関の受診患者の男女比は、15歳未満の年齢群では1.1:1とやや男性に多く、30代から50代の年齢群では1:1.25と女性に多かった。なお、2016年第36週以降これまでの累積の推計受診者数は約19万人となった。

基幹定点からのインフルエンザ患者の入院報告数（インフルエンザ入院サーベイランス）は、直近の第45週が53例で、前週の38例よりも増加した。なお、現時点で、今シーズンの累積入院報告数は70歳以上の高齢者が179/301例（59%）と半数以上を占めている（インフルエンザの発生状況について）。

インフルエンザウイルスの検出状況を見ると、直近の5週間（2016年第41～45週）ではAH3亜型の検出割合が多く、次いでAH1pdm09であった（インフルエンザウイルス分離・検出速報）。

例年のインフルエンザ流行は、11月末から12月にかけて始まり、1月末から2月上旬にかけてピークとなることが多い〔今冬のインフルエンザについて（2015/16シーズン）〕。2016/2017年シーズンは、定点当たり報告数の増加が例年より早く、過去5年間の同時期と比較して、第39週以降毎週平均+2標準偏差（過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均）を超えている。

今後、インフルエンザの流行期を迎えるにあたり、飛沫感染対策としての咳エチケット（有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと）、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要である。高齢者における感染への警戒の観点から、医療・福祉施設へのウイルスの持ち込みを防ぐために関係者が個人で出来る予防策を徹底すると同時に、訪問者等においては、インフルエンザの症状が認められる場合の訪問を自粛してもらう等の工夫

が重要である。なお、65歳以上の高齢者、又は60～64歳で心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、あるいはヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方は、予防接種法上の定期接種の対象となっている。

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第47週 平成28年11月21日(月)～平成28年11月27日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所						計	前週	全国(46週)	高知県(47週未累計)		全国(46週未累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H28/1/4～H28/11/27	H28/1/4～H28/11/20		
インフル エンザ	インフルエンザ		1	1	2	1	5 (0.10)	16 (0.33)	6,843 (1.38)	14,958 (311.63)	1,605,847 (325.14)			
小児科	咽頭結核熱		7	22	1		30 (1.00)	23 (0.77)	984 (0.31)	652 (21.73)	59,085 (18.73)			
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	1	14	28	4	3	51 (1.70)	27 (0.90)	7,000 (2.22)	2,259 (75.30)	324,702 (102.92)			
	感染性胃腸炎	5	46	51	17	10	143 (4.77)	132 (4.40)	41,442 (13.12)	6,174 (205.80)	807,896 (256.07)			
	水痘		5	15	4		24 (0.80)	21 (0.70)	1,598 (0.51)	419 (13.97)	53,912 (17.09)			
	手足口病			2			2 (0.07)	4 (0.13)	2,300 (0.73)	343 (11.43)	60,004 (19.02)			
	伝染性紅斑		1	5			7 (0.23)	6 (0.20)	378 (0.12)	323 (10.77)	49,131 (15.57)			
	突発性発疹		1	5		2	10 (0.33)	15 (0.50)	1,369 (0.43)	485 (16.17)	68,959 (21.86)			
	百日咳				1		3 (0.10)	2 (0.07)	34 (0.01)	110 (3.67)	2,758 (0.87)			
	ヘルパンギーナ			5			6 (0.20)	5 (0.17)	453 (0.14)	782 (26.07)	127,592 (40.44)			
	流行性耳下腺炎		10	4	2	2	19 (0.63)	16 (0.53)	3,046 (0.96)	885 (29.50)	141,339 (44.80)			
RSウイルス感染症		4	8	3	2	4	21 (0.70)	27 (0.90)	3,499 (1.11)	1,003 (33.43)	88,752 (28.13)			
眼科	急性出血性結膜炎						()	()	()	()	358 (0.52)			
	流行性角結膜炎			1			1 (0.33)	()	490 (0.71)	19 (6.33)	23,299 (33.72)			
基幹	細菌性髄膜炎						()	()	7 (0.01)	10 (1.25)	454 (0.96)			
	無菌性髄膜炎						()	()	20 (0.04)	34 (4.25)	1,246 (2.63)			
	マイコプラズマ肺炎			9			9 (1.13)	11 (1.38)	624 (1.32)	296 (37.00)	16,779 (35.40)			
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1			1 (0.13)	()	9 (0.02)	30 (3.75)	309 (0.65)			
	感染性胃腸炎			2			2 (0.25)	()	20 (0.04)	239 (29.88)	5,125 (10.81)			
計	6	89	160	33	21	25	334		70,116	29,021	3,437,547			
(小児科定点当たり人数)	(3.00)	(12.65)	(13.32)	(10.73)	(10.25)	(5.00)	(10.63)			(759.47)				
前週	18	80	143	18	23	23		305						
(小児科定点当たり人数)	(8.25)	(10.77)	(12.52)	(5.32)	(11.50)	(3.80)		(9.60)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点当たり

第47週

定点名	疾病名	保健所						計	前週	全国(46週)	高知県(47週未累計)		全国(46週未累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多				H28/1/4～H28/11/27	H28/1/4～H28/11/20		
インフル エンザ	インフルエンザ		0.09	0.06	0.40	0.25	0.10	0.33	1.38	311.63	325.14			
小児科	咽頭結核熱		1.00	2.00	0.33		1.00	0.77	0.31	21.73	18.73			
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	0.50	2.00	2.55	1.33	1.50	0.20	1.70	0.90	75.30	102.92			
	感染性胃腸炎	2.50	6.57	4.64	5.67	5.00	2.80	4.77	4.40	205.80	256.07			
	水痘		0.71	1.36	1.33			0.80	0.70	13.97	17.09			
	手足口病			0.18				0.07	0.13	11.43	19.02			
	伝染性紅斑		0.14	0.45			0.20	0.23	0.12	10.77	15.57			
	突発性発疹		0.14	0.45		1.00	0.40	0.33	0.50	16.17	21.86			
	百日咳			0.09		0.50	0.20	0.10	0.07	3.67	0.87			
	ヘルパンギーナ			0.45			0.20	0.20	0.17	26.07	40.44			
	流行性耳下腺炎		1.43	0.36	0.67	1.00	0.20	0.63	0.53	29.50	44.80			
RSウイルス感染症		0.57	0.73	1.00	1.00	0.80	0.70	0.90	33.43	28.13				
眼科	急性出血性結膜炎										0.52			
	流行性角結膜炎			1.00			0.33		0.71	6.33	33.72			
基幹	細菌性髄膜炎								0.01	1.25	0.96			
	無菌性髄膜炎								0.04	4.25	2.63			
	マイコプラズマ肺炎			1.80			1.13	1.38	1.32	37.00	35.40			
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.20			0.13		0.02	3.75	0.65			
	感染性胃腸炎			0.40			0.25		0.04	29.88	10.81			
計		3.00	12.65	13.32	10.73	10.25	5.00	10.63		759.47				
(小児科定点当たり人数)		3.00	12.65	13.32	10.73	10.25	5.00	10.63		759.47				
前週		8.25	10.77	12.52	5.32	11.50	3.80		9.60					
(小児科定点当たり人数)		8.25	10.77	12.52	5.32	11.50	3.80		9.60					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）

TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869